

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦評用紙

か

男子 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名															
富岡東高等学校	22	<table border="1"> <tr> <td>13</td> <td>—</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>—</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>7mTC</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	13	—	6	9	—	12	—	—	—	—	—	—	7mTC			18	湯沢高等学校
13	—	6																	
9	—	12																	
—	—	—																	
—	—	—																	
7mTC																			

今大会で4年連続出場となる富岡東高校と速攻に自信を持つ湯沢高校の1戦。湯沢高校のスロー

オフで試合開始。序盤からスピードの速い展開で両校一步も譲らぬ展開。前半10分が過ぎようという

ところで富岡東が2点リード。7番キャプテンの寺島が持ち前のスピードで湯沢のディフェンスをか

く乱していく。湯沢も積極的にシュートを打っていくが、富岡東の1番伊原の好セーブに阻まれ苦し

い時間帯が続く。しかし前半25分ごろ、湯沢が相手の意表を突くポストプレーで3連続得点を決め、

徐々に追い上げを見せる。湯沢に流れが傾きかけたところで前半終了のホイッスル。13対6で

13対6で富岡東がリードしたままハーフタイムを迎えた。

後半は終始湯沢高校がゲームを支配する形となった。開始30秒で湯沢の15番森下が得点。その後

も富岡東のディフェンスを翻弄する。守りでは1番笹野が好セーブを連発し、チームの士気を上げる。

富岡東に退場者が出るなどその後も湯沢にチャンスが続き、3点差まで差を縮める。しかし最後まで

逆転には至らず、22対18で富岡東が勝利した。

2017年 3月 24日

記載者氏名 日高 優一

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男う

男子・女子 1 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
法政大学第二高校	48	<table border="1"> <tr><td>22</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>26</td><td>—</td><td>13</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	22	—	8	26	—	13	—			—			—			7mTC			21	県立法隆寺国際高校
22	—	8																				
26	—	13																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

試合開始後の法政藤田、西、加藤、内田、西の5連続得点のあと、法隆寺がタイムアウト。再開直後

に法隆寺1点を返すが、直後に法政2連続得点と法政が勢いによって序盤が進んでいく。その後たがい

に得点を重ねるも、法政の流れを保ちながら前半中盤が進行する。法隆寺得点チャンスも法政キーバ

ー高橋に阻まれ、法政キャプテン藤田、加藤を中心に得点を重ね前半24分には19-7と法政が法隆

寺を大きくリードする。前半終了まで法政の優勢が変わらず、22-8で終了する。

後半立ち上がり、法政高橋の連続得点からスタートする。法隆寺のセット攻撃も法政のディフェンスに

阻止され、法政の逆速攻による得点が目立った。法隆寺は緒方のサイドシュートなど好プレーも見られ

たが、得点直後に法政に再得点される場面がみられた。後半終了5分前には法政が42-18と大きく

リードし、安定した試合運びを見せた。攻撃のスピード、機敏なディフェンス、安定感のあるゴールキ

ーピングなど法政のスマートさと関東地区準優勝の貫録が目立つ試合であった。

29年 3月 24日

記載者氏名 廣野尚敏

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男く

男子 ・ 女子 1回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

チーム名	総得点		総得点	チーム名
中部大春日丘	<u>35</u>	[12 - 14]	<u>29</u>	熊本国府
		[15 - 13]		
		[8 - 2]		
		[-]		
		[-]		
		[7mTC]		

東海ブロック・春日丘高校と九州ブロック・熊本国府高校の一戦は、熊本国府のスローオフで試合開始。

前半1分、春日丘が3番岩村の鋭いシュートで幸先良く先制し、3連続得点を決める。対する熊本国府は、

3分15秒に6番外池のシュートで反撃を開始し、6分58秒からは3連続得点を決め、一時は4対4の

同点に追いつく。一進一退の攻防は続き、熊本国府は20分00秒に7mスローを得るが、これを春日丘

の大橋がファインセーブし同点を阻止する。しかし、春日丘は23分04秒に3番岩村が痛恨の2分退場。

このチャンスを逃さなかった熊本国府は一気に4連続得点を決め、逆転に成功。12対14の2点リードで

前半を終了する。後半は春日丘が連続得点で同点に追いつくが、互いに譲らぬ攻防は続く。12分40秒、

春日丘は4番斎藤、9番仲山が連続退場。この機に、熊本国府は連続得点を挙げ差を広げるが、春日丘は

激しい追い上げを見せ、29分30秒に16番長坂のシュートで同点に追いつき、延長戦へと持ち込む。

延長前半は春日丘の3連続得点で終了し、リードを保って後半へ。後半2分16秒、熊本国府は17番古江

が2分退場。その後、春日丘は得点を重ね、たび重なる逆転劇に終止符を打ち、2回戦へと駒を進めた。

29年 3月 24 日

記載者氏名 石田 聡

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

お

男子 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点				総得点	チーム名
星城高等学校	14	7	—	18	27	明光学園高等学校
		7	—	9		
		—				
		—				
		—				
			7mTC			

守りを特徴とする星城高等学校（愛知県）と堅守・攻勢を特徴とする明光学園高等学校（福岡県）の1回戦。星城のスローオフで試合開始。明光・今井のサイドシュートで試合が動く。一方星城は小嶋のロングシュートで応戦する。しかし、4分のPTで得点を奪った明光はペースを掴み、多彩な攻めで連続11得点をあげる。星城は5-1ディフェンスからの速攻を狙うが、高い位置での明光の4-2ディフェンスを攻めきることができない。15分に星城の加藤のミドルシュートで反撃するが点差は縮まらない。20分以降、星城も落ち着きが出てきて攻撃のリズムが出て来たが、明光の速い球回しから笠を中心とした攻撃がやむことはなかった。前半は18対7、明光が9点のリードで折り返す。後半10分までは一進一退の展開が続く。後半10分より状況を打開するため明光はディフェンスを3-2-1に変え、星城にプレッシャーを与える。これが効果的に機能し、徐々に明光のペースとなる。しかし、後半は星城が必死で食らいつき、最後まで走り抜いて点差を縮めたが力及ばず、明光が27対14で勝利した。

2017年 3月 24日

記載者氏名 三浦 巡